

	<p>日本プライマリ・ケア連合学会 四国ブロック支部</p> 	<p>発行人：阿波谷, 大原, 板東, 川本, 澤田 事務局 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶 1720-1 綾川町国民健康保険陶病院気付 副支部長/事務局長 大原昌樹・土肥宛 Tel. 087-876-1185 Fax. 087-876-3795 E-mail oharamasaki@gmail.com</p>
---	--	---

★1 高知家総合診療専門研修プログラム研修修了式

高知家総合診療専門研修プログラム事務局
福留恵子（高知大学家庭医療学講座）

2021年3月7日。ここに晴れて2人の修了生が誕生しました！高知家総合診療専門研修プログラムを終えた、高知県初の総合診療専門研修修了生です。

プログラム責任者の瀬尾宏美先生から修了証書が授与されました。また、濱田省司高知県知事からもビデオメッセージをいただきました。高知県全体が1つにまとまったのプログラム運営に力強い後押しをいただいていることにあらためて感謝申し上げます。

初期臨床研修終了後、医師3年目から専門研修を開始された江端千尋先生は、高知医療センター・県立あき総合病院/幡多けんみん病院・野市中央病院での3年間の研修を積み重ねました。

最初は「研修医3年目」と言いたかった、というご本人の振り返りでしたが、この3年間で主治医としての判断・決断・責任・やりがいを十分に感じ、まさに各研修施設で即戦力として頼りにされる存在に大きく成長されたことが、ともに働いた先生方からのコメントで伝わってきました。今春からは、糖尿病について専門的に学ぶ数年間をすごし、また総合診療専門医として地域で力を発揮したいと抱負を発表してくれました。



自治医科大学卒業後の義務年限の中で、医師5年目から研修を開始された西原桜子先生は、県立幡多けんみん病院・嶺北中央病院・高知医療センターでの3年間の研修を行いました。臨床経験を積まれてからの専攻医だったこともあり、現場での信頼感は抜群でしたが、自ら交渉して内視鏡研修や気管挿管研修の機会をつくっていった「学びたい」という意欲的な姿勢が印象的でした。

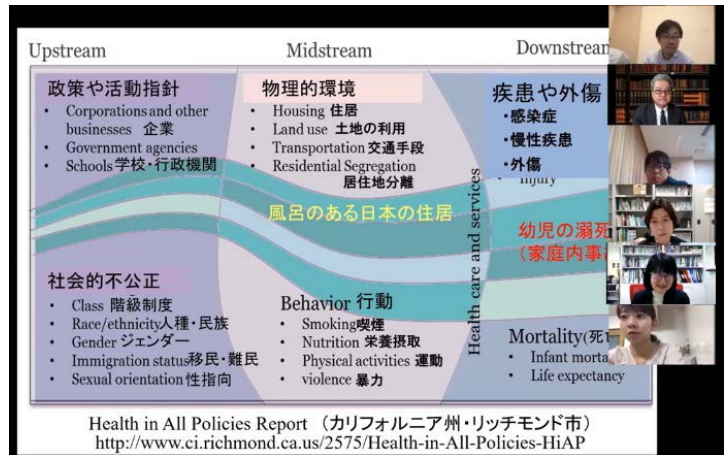


総合診療専門医を取得することは「総合診療の入り口」なんだ、これからもっと道を究めていきたいとお話しされる姿に頼もしさを感じました。研修の中では領域別として緩和ケアを学び、来年度からもさらにその分野において勉強を進められます。

お二人が総合診療専門医としても、プログラムの修了生としても、高知県で最初の走者となります。先陣を切る大変さ、だからこそ見える景色、これらを大切にますます活躍して欲しいとエール

を送られた高知医療再生機構倉本先生のお言葉が印象的でした。

記念講演は順天堂大学大学院医学教育研究科医学教育学教授の武田裕子先生にご講演をいただきました。学生さん、初期研修医の先生もご参加いただき、計 26 名で盛況な講演会となりました。SDH、医療者がこれに取り組む重要性と必然性、医療者だからこそできること。「助けて」が言えないひとがいることを知ること、助けを求めないことは助けがいないことではなく、「助けて」さえ言えない様々な状況があるからで、SDH に関することは決して自己責任ではないこと。医療の問題のそのさらに「上流」にある問題に目を向ける必要が医療者にはあること…



2020 年からコロナに苦しむ社会において SDH の問題は今まで以上に重要性が増しています。診察室にいる目の前の患者さんに「大変ななか、よく来てくれましたね」この一言は、その人の困難を減らさないとしても、その人が「困難に立ち向かう力」を支えることができる。とても多くのメッセージとエールをいただきました。ありがとうございました！

4 月 24 日 (土) には、新専攻医を迎えて研修開始式をオンラインで開催いたします。ぜひご参加ください。

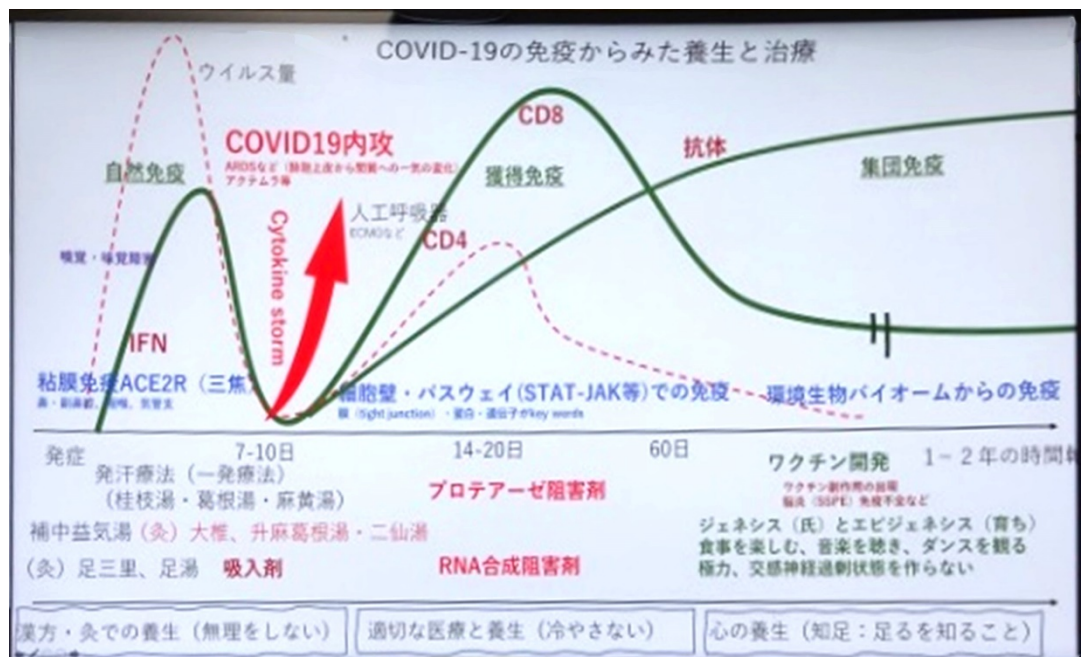
★2 日本プライマリ・ケア連合学会会員による講義

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 (愛媛) 川本 龍一

「地域医療における心のケア コロナ感染と漢方」 (2021 年 1 月 8 日、Web 講義)

愛媛県立中央病院東洋医学研究所 所長 山岡 傳一朗先生

山岡傳一郎先生には、コロナ禍における漢方処方の方針について講義をいただきました。ドイツとスペインから山岡先生の友人参加もあり、活発に質疑応答がなされた。世界はこれまで経験のない未曾有のコロナ感染禍にあり、欧米では日本以上にその現状はすさまじいようです。皆さん現地で頑張られており、漢方の使い方も経過に応じて代えていく必要性についても解説されました。英語でのレクチャーにて国際社会で活躍されている先生ならではの講義でした。



「バングラデシュでの医療活動」(2021年1月28日、Web 講義)

医療法人鷺友会牧病院 宮川 眞一先生

宮川 眞一先生は、子供の頃の岩村 昇先生との出会いやパキスタンでの中村医師との出会いが先生の現在の活動につながっています。関西学院大学に入学、学生時代にバングラデシュに赴き体験したというお話でした。

医学部卒業後は、福岡徳洲会病院で研修されました。その後 JOCs 日本キリスト教海外医療協会に参加し、バングラデシュにおいて医療活動に従事されました。その際には、ダッカ人質テロ事件やロヒンギャ難民問題などについて貧困や格差、人種差別などが背景にあることを教えていただきました。

さらに、社会的企業（無担保で企業するソーシャルビジネス、マイクロクレジット）や社会的貢献（Table for Two）についても現地の前向きな取り組みを紹介されました。



★3 「ふりかえりの会」の活動を継続

愛媛生協病院 家庭医療科 原 穂高

我々は従来、「ふりかえりの会」の活動を継続してきております。その中で、9年の歩みをふりかえて、少しご紹介させていただきたいと存じます。

はじめに、この会が開始されたきっかけについて述べます。かつて、日本プライマリ・ケア連合学会の後期研修プログラムを始めたことが、本会の発足に関係しております。そのときから、長年にわたって、活動が続けられてきています。

その目的および目標については、専攻医がさまざまな診療を行った後、若干その内容をふりかえる機会があれば、いろいろな意味で成長の一助となると思われます。2012年から2ヶ月に1回、土曜午後に「ふりかえりの会」を開催して参りました。

第1回は2012年6月岡山で開催して、気づけば2021年2月の会で第46回を数えるに至ります。



場所を求めて各地の研修施設を転々としていました。レジデンシー・せとうちというプログラムでカバーする地域が広く、松山を飛び出して新居浜、高松や岡山、津山などあちこちで開催してきました。今日のコロナ禍では、オンラインで結ばれやすくなり、おかげで長距離移動は不要、自宅や出先からでも参加できるようになり、意図せず参加者が増えました。



ふりかえりの会には専攻医、指導医、プログラム外の指導医や専攻医、関心のある研修医や事務方が参加してきています。そうなのです、「プログラムの範囲に含まれない」指導医や専攻医も参加しているのです。これはかなり早期からのことで、プログラム間で越境交流をしてきました。またオンラインのおかげで育休中の専攻医も参加できています。

専攻医は PowerPoint など近況を伝え、スライドのなかで気になっている患者さんや取り組みを紹介します。それがポートフォリオのタネになることが多いので、周りから温かいフィードバックを行います。うまくマネジメントを進められない「もやもや」の事例を出しても、非難されたり糾弾されたりはありません。このように安全な環境・雰囲気为保障しているため、専攻医は悩みや失敗を率直に話せます。通底する価値観となる No Blame Culture の醸成が大切と感じています。



指導医から家庭医療・総合診療に関わるレクチャーが提供されます。家庭医療学のコアレクチャーのこともあれば、明日から臨床に導入できる実践的な内容や担当指導医にとっておきの内容のこともあり毎回楽しみです。表向きは専攻医向けを装っていますが、実はこのレクチャーの対象は指導医層でもあるのです。家庭医・総合診療医の育成経験が少ない指導医も共に学んでいただくことがもう一つの目的です。

時間でお開きになります。

司会は指導医です。たいていは新居浜協立病院の谷本先生が担当してくれます。休憩をはさみながらおよそ 3

このような感じで 9 年目を迎えるふりかえりの会を紹介させて頂きました。お時間が合えばちょっぴりのぞいてみませんか？

